

学校新聞（狗留孫）

さよならだけが人生だ

校長 竹村 和之

君金屈卮　この杯を受けてくれ
満酌不須辞　どうぞなみなみ注がしておくれ
花発多風雨　花に嵐のたとえもあるぞ
人生足別離　さよならだけが人生だ

未成年の皆さんに、飲酒を勧めているわけではない。井伏鱒二の思い切った訳で有名な「勸酒」（于武陵）と題する唐詩である。「美しく咲きほころぶ桜の花も、春の嵐とともにあっという間に散ってしまう。人生も同じで、出会いの分だけ別れがある。だから、友よこの一杯を楽しもう。今日のこの日を心から楽しもう。」という意味だろうか。「別れ」という無常の世界観の中で、「さよならだけが人生だ」と言い切りながらも、明日への力強い期待感を感じる。

出会いは残酷だ。その出会いが良いものであればあるほど、必ず訪れる別れは辛い。出会いは偶然、別れは必然。それでも人は出会いを、良い出会いを求める。それは、その人との出会いが、別れの辛さを超えた彩りを人生に与えてくれるからだ。別れの時、胸の中が搔きむしられるような良き出会いを重ねて行って欲しい。

予告なしに突如訪れる別れもある。東日本大震災。愛する人に「さよなら」の一言も残せなかった永遠の別れ。「こんなことになるのなら」被災地でよく耳にした言葉だそうだ。「こんなこと」が予めわかるなら、その大切な人に、何をしてあげるだろうか。一つ一つの出会いと、その人たちとの日々を大切に生きて欲しい。

卒業。「さよなら、またね」と、笑顔で再会が約束できる、またきっと会える幸せな別れ。

いつの日か今よりもずっと輝く皆さんが再会する日が楽しみだ。卒業おめでとう。